

令和2年(2020年)7月豪雨
非常災害対策本部会議(第1回)議事録

日時:令和2年7月5日(日)17:33~

場所:官邸4階大会議室

1.被害状況報告

(気象庁長官)

- 梅雨前線の影響で、現在、被災地でも雨が降っており、これから明日6日にかけて、再び大雨となるおそれがある。
- 被災地では、氾濫が発生した河川があり、また、これまでの雨により土砂災害の危険度の高い状態が続いている。このため、わずかな雨量でも災害が発生するおそれがあり、厳重に警戒が必要。
- また、この梅雨前線は、8日頃にかけて停滞するため、西日本から東日本で大雨となるおそれがあります。河川の増水や氾濫、土砂災害に厳重に警戒、低い土地の浸水に警戒・注意が必要。

(内閣危機管理監)

- 人的被害について、調査中死者18名、心肺停止15名ということで、実質的に33名の方が亡くなっている。人吉市9名、球磨村14名(特別養護老人ホーム千寿園でのお亡くなりになった方々)、芦北町簸瀬地区9名は水による被害で、津奈木町1名は土砂崩れによる被害である。安否不明の津奈木町2名については現在捜索中。
- 各省庁の対応について、昨日、警察庁・消防庁・防衛省・海上保安庁等から多数の部隊・航空機等を派遣し活動しているが、ゴムボートやヘリ等により414名の方を救出している。うち、半数以上はヘリによるものだが、自衛隊が役150名救出している。本日も同程度の部隊・航空機を派遣し、被害確認や救出・救助を行っている。
- ライフライン関係について、電力・上水道・下水道・通信等に被害が生じている。
- 交通関係(道路)について、国道はそれほど被害は出ていないが、県道はかなりの被害が生じており、ライフラインの復旧に時間がかかる見通しである。
- 避難指示等について、現在の避難者数が熊本県・宮崎県で1,500名程度でありそのほとんどが熊本県だが、熊本県の避難者のうち約1,000名が人吉市の避難者の数である。新型コロナウイルス対策等に留意しながら、避難所対策を講じているところ。

2.実施方針について

(防災担当大臣)

- これまでの総理指示を踏まえ、災害応急対策等に関する実施方針(案)について、取り

まとめた。関係省庁の皆様におかれては、よろしく願います。

3. 各省庁の対応状況

(防災担当大臣)

- 防災担当大臣として申し上げます。
- 昨日、熊本県に入って熊本県庁にて知事との意見交換を行い、本日は熊本県人吉市において球磨川の氾濫による浸水被害現場及び感染症防止対策も含めた避難所の対応状況を視察し、市長との意見交換も行ってまいった。
- 甚大な被害を受けた被災地の姿を目の当たりにし、浸水により変わり果てた地域の復旧に向け、大変な不安を感じておられる被災者の方々の切実な思いに触れてまいった。
- 今回の視察を通じ、引き続き人命救助活動に全力で取り組むとともに、被災された方々の生活支援や復旧復興に全力で取り組む決意を新たにしたところ。
- プッシュ型支援については、現下の状況を踏まえて、飲料水や食料はもとより段ボールベッドや非接触型体温計、布製パーテーションといった避難生活に必要な物資について、昨日より順次発送を行っているところだが、視察先でスポットクーラー等暑さ対策に関するご要望をいただいたため、これも踏まえてされなる支援を迅速に行ってまいる。また、視察先の避難所で入浴に対する要望があったことから、自衛隊に対し要望をしたところ。
- また、災害救助法をはじめとする各種災害支援制度を活用いただく観点や、中小企業の支援をはじめとして今後の復旧支援をスムーズに進めていく観点から、国や県からの市町村への人的支援の重要性について改めて認識した。各省庁の政府職員についても、被災地に向け次々と派遣し、現地における活動を精力的に進めているところだが、関係省庁には最大限の尽力をいただくようお願いする。

(国家公安委員会委員長)

- 続いて、国家公安委員会委員長として申し上げます。
- 警察においては、引き続き、ヘリや水陸両用車等を活用し、被災状況の情報収集、救出救助、信号の滅灯した交差点における交通対策等に当たっている。

(農林水産大臣)

- 農林水産関連のため池や農業用ダムでは、人的被害の報告はない。熊本県・鹿児島県の防災重点ため池 320 箇所のうち 94 箇所点検を済ませており、うち 1 箇所損傷の被害があり、応急対策を行っている。
- プッシュ型支援については、食料・飲料については全量手配を済ませている。特に要望の大きかった飲料水については、広域物資拠点の熊本県益城町に配送済みである。その他、パックご飯や、レトルト・缶詰、カップめん等についても本日中または明日中に到

着予定である。

- 農林水産省としては、引き続き、災害対応に当たって、関係省庁・熊本県等と連携し、先手先手の対応に努めてまいる。

(国土交通大臣)

- 発生状況からこれまでの対応としては、人命最優先の観点から、海上保安庁の航空機等を出動させ、孤立者 15 名を救助し、引き続き捜索を行っているところ。
- また、テックフォース 89 名を第 1 弾として、現地に派遣し、19 台の排水ポンプ車による排水活動や決壊した堤防の復旧活動などに 24 時間態勢であたっております。
この排水活動については、球磨川沿川で約 1,060ha に及んだ浸水範囲は、今朝 9 時時点で約 20ha までに縮小しております。
- 次に決壊した河川の堤防の復旧については、国管理の球磨川で堤防決壊していた 1 箇所は本日中に、また鹿児島県管理の河川で決壊した 2 箇所は明日中に仮の堤防が完成予定となっている。
- 高速道路については、7 箇所で行き止まりとなっていたが、何れも 4 車線であったことを幸いとして、本日午前までに全て通行可能となった。
- 一方、鉄道については、三つの橋梁の流出など大きな被害を受けているため、復旧までに時間を要する見込みである。
- 今後の対応について、被災地では、今後まとまった降雨が予想されていることから、テックフォース第 2 弾を派遣し、また、排水ポンプ車を事前配備し、球磨川上流の市房ダムでできる限り水位を低下させるなど、警戒態勢を強化してまいる。また、九州地方整備局と福岡管区气象台の合同会見、避難の目安となる危険水位の引き下げなどにより、被災地住民の皆様に早めの避難を呼びかけていく。
- 引き続き、現場力を最大限発揮し、自治体等と連携を密にして、地域に寄り添った対応をしてまいる。

(防衛大臣)

- 自衛隊は昨日から昼夜を問わず、人命救助、物資の輸送、情報収集にあたっている。本日（7月5日）は、約 2,150 人態勢で、ヘリ 20 機、固定翼機 2 機で人命救助並びに情報収集を行っております。今日（7月5日）の正午の時点で救助者数 507 名に至った。
- 熊本県庁、鹿児島県庁の他、7 つの市町村に連絡員を派遣している。
- 即応予備自衛官 200 名の招集を、持ち回りの閣議で決裁をお願いする。

(総務副大臣)

- 総務省は 4 名の職員を、消防庁は 10 名の職員を現地に派遣している。
- 消防関係では、26,000 名の消防職団員に活動いただいている。また、緊急消防援助隊に

については、陸上部隊 600 名が、ヘリコプター7機で救出活動を行い、102 名の人を救出・救助した。引き続き、全力で取り組んでまいる。

- 通信障害について、早期の復旧に向けて移動式車載型基地局の展開、携帯電話充電器の避難所への配備等、通信事業者とも連携しつつ取り組んでまいる。
- 自治体職員の応援派遣については、熊本県の被災 7 市町村に対し、九州、中国ブロック 7 県市からの支援チームを派遣し、現地で活動をしている。
- 引き続き、早期の復旧に向けて全力で取り組んでまいる。

(厚生労働副大臣)

- 本日 14 時現在で厚生労働省が把握している主な被害状況等について報告する。
- まず水道関係について、熊本県、鹿児島県の広い地域で断水被害が発生していたが、現時点で鹿児島県の断水は解消している。熊本県については最大で 8,936 戸以上の断水が確認されていたが、本日 14 時現在で 2,142 戸が解消済みであり、6,674 戸以上の断水が確認されている。なお、確認中の地域もあるため確認を急いでいる。
- 次に医療機関や社会福祉施設の被害状況について、医療機関については、13 時時点で、熊本県内全体で合計 10 病院が浸水等の被害を受けている。社会福祉施設等については、状況の確認中だが、八代市、人吉市、芦北町、相良村、球磨村、あさぎり町で浸水等の被害が生じている施設が、心肺停止の方が 14 名おられる「千寿園」を含めて、現時点で 21 か所確認されている。また、多くの地域において浸水被害が生じており、避難所における健康被害の発生が懸念されることから、本日、本日国立感染症研究所から 2 名、厚生労働省から 4 名、計 6 名の職員を熊本県と鹿児島県に派遣した。
- 避難所における新型コロナウイルスをはじめとする感染症や熱中症の予防対策を中心に、被災者の方の健康管理について支援するよう指示している。
- 引き続き、自治体との連携を密にして、被害状況を把握し、電源車の派遣要請や給水の実施など、被害の拡大防止と支援に取り組んでまいる。

(経済産業大臣政務官)

- 本日、16 時時点で熊本県内の停電状況は、浸水被害のあった球磨村、八代市等を中心に合計約 4,650 件となっている。
- 土砂崩れや道路陥没等で、立ち入り困難な場所にある約 4,000 件を除いて、本日中に復旧が完了する見通し。また、立ち入り困難箇所に関しても、ドローン、ヘリコプターを用いて巡視を行い、可能な限り速やかな復旧に取り組む。
- 熊本県及び厚生労働省から要請のあった停電中の 11 の病院については、6 箇所が既に復旧している。5 か所に関しては、一部は非常用発電機で対応しており、残りも近接する高圧線の復旧が完了しているため、病院側の浸水した電気設備の復旧を急いでいる。

- 次に、空調、物資について、経済産業省から現地に7名の職員を派遣しており、現場のニーズを把握している。まず、空調に関して、スポットクーラー5台、最も避難者の多い人吉スポーツパレスの方に明日午前中には届くように手配しており、明日以降、追加で142台を避難所に届けてまいる。また、業務用クーラー170台、ルームエアコン50台も被災地の近くに確保しており、明日以降、順次、避難所に設置してまいる。
- また、物資については、パーティション、簡易トイレ等を発送し、本日既に一部は到着済みである。明日以降、順次、避難所に届けてまいる。
- なお、コンビニに関しては、浸水被害の深刻な人吉、八代、芦北などの地域では、営業を停止している状況であるが、被災地域にある大型スーパーは、本日既に営業を再開している。今後、生活物資が不足することのないよう、関係する企業とともに、周辺地域からの応援を進めてまいる。

4. 内閣総理大臣発言

- 九州地方の記録的な大雨による球磨川の氾濫や土砂災害により大きな被害が起こって、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様にお悔やみ申し上げたい。全ての被災者の皆様にお見舞い申しあげる。
- 本日、非常災害対策本部を設置した。各位にあつては、先ほど決定した方針に基づき、被災者の救出救助に全力をあげるとともに、電気や水道等のライフラインの早期回復、被災者の支援等に全力であたっていただきたい。何よりも人命が第一。孤立した住宅等からの救助、安否不明者の捜索に全力で当たっていただきたい。
- 現在、警察、消防、海上保安庁、自衛隊の諸君が、4万人を超える体制で、懸命に救命救助活動や安否不明者の捜索にあつている。引き続き浸水により孤立した住宅等からの救助、安否不明者の捜索に夜を徹して全力であたっていただきたい。
- 暑さが厳しくなる中、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を含めた被災者へのきめ細やかな支援が急務である。飲料水や食料はもとより、クーラー、段ボールベッドや非接触型体温計、布製パーティション、簡易トイレといった物資をプッシュ型支援で避難所に発送するほか、災害総括支援員の派遣、被災自治体への人的支援に全力をあげていただきたい。
- また、被災地の多くの家屋が浸水被害を受け、避難の長期化も予想される。安心して滞在できる旅館やホテルの確保、公営住宅や公務員住宅、賃貸住宅によるみなし仮設の確保を早急に進めていただきたい。
- 今回の雨による災害に関し、被災者へのきめ細やかな支援は急務である。政府として、被災者支援を迅速かつ強力に進めるため、本日、各省横断の被災者生活生業再建支援チームを設置する。現在、現地に100名以上の政府職員を派遣しているが、必要に応じ、躊躇無く増強していく。また、被災者の生活を支援するため、本日、この後、即応予備自衛官の招集を閣議決定する。

○被災地ではこれから、明日にかけて大雨となる可能性があり、引き続き嚴重な警戒を続ける必要がある。これまでに降った大雨により、地盤の緩んでいるところもあり、被災地の皆様におかれては、引き続き自治体からの情報に注意し、土砂災害や河川の氾濫などに十分に警戒していただくようお願い申し上げます。

(以上)